

科目名

建築計画Ⅱ Architectural Planning Ⅱ

1年 後期 2単位 必修

秋 元 一 秀

概要

住宅は最も身近だが、最も長い歴史をもつ建築である。したがって、多様な実態と変遷があり、容易な建築に見えて、奥深い対象である。住宅のあり方は、自然環境、人々の生活スタイルや価値観、社会的・技術的条件などと密接に関係している。今日、これらの諸条件は多様に、また大きく変化しており、眼前の事象を表面的に眺めるだけではその関係性は見えてこない。住宅を対象に、それを成り立たせる背景を学び、幅広い視野を身につけ、建築を計画・設計することの意義を概説する。

学習目標

- (1) 建築を設計・計画することの特殊性とその方法を理解する。
- (2) 住宅のあり方にかかわる要素を学ぶとともに、それぞれの関係性の比重により、住宅の形態が多様であることを理解する。
- (3) 現代の住宅において関係性の強い構成要素を理解するとともに、今後の住宅に求められる課題を思考する。

授業計画

テーマ	内容
① 住宅とは	建築とは、建築の位置付け、多様な住宅
② 住宅を規定する要素 i	自然的要素として自然環境、地形、立地場所との関係で住宅を考える
③ 住宅を規定する要素 ii	人為的要素として、建築技術、生業形態、防御、社会形態との関係で住宅を考える
④ 住宅を規定する要素 iii	人為的要素として文化形態との関係で住宅を考え、決定論では説明できない住宅の多様性を解説する
⑤ 近代建築理論と建築計画	近代建築理論と建築計画の理論と方法を解説する
⑥ 住生活と生活構造	住宅とは住生活のための空間であり、その住生活の内容をその成員や生活行為の面から解説する
⑦ 団欒・食事の空間 i	居間及び食事室の意義と要求条件を学び、その計画を行う上での要点を解説する
⑧ 団欒・食事の空間 ii	人間が複数存在して対人行為を行う場合の特徴と、その空間の計画上の要点を解説する
⑨ 家事の空間	台所を中心に、社会・技術の発展に伴う家事スペースの変遷と、求められる要点を解説する
⑩ 就寝の空間	日本における就寝にかかわる特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件を解説する
⑪ 生理・衛生の空間	浴室・洗面所・便所の計画上の要点を解説する
⑫ 連絡の空間、屋外空間	玄関・廊下・階段及び庭・サービスヤードの計画上の要点を解説する
⑬ 計画手法と日本の住宅における特質	配置計画上の要点及び平面計画を行う上でのゾーニングや動線分離の手法、並びに、日本の住宅にみられる構成上の特徴に関して解説する
⑭ 今後の住宅の課題	現在の住宅までの移り変わりを解説し、今後の住宅のあり方を考える
⑮ 定期試験	

授業方法

授業計画に関連する情報をビデオやスライドなどによるビジュアルな資料とプリントを提供し、自ら内容を考える環境とする。必要に応じて、授業の前後に関係する事項の問題を課し、動機付けを行う。

学習到達度の評価

- 1) 授業中における学生への質問により、大まかな理解度をはかる。
- 2) 適宜レポートを課し、理解度を把握するとともに発展学習を促す。

評価方法

授業内の問題及びレポートを30点、定期試験を70点として評価する。

教科書・教材

配布プリント

参考書

建築計画教材研究会 編「建築計画を学ぶ」理工図書
日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料集成」丸善

履修上の注意

この講義は住宅の計画・設計を行う上での基礎的知識を教授することから、特に2年前期に開講する「建築設計製図Ⅰ」を受講する上で必要である。

オフィスアワー

適宜、昼休み（12：00～1：00）に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修／選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてB1に関連する。	必修	22.5時間